

第6学年 道徳科学習指導案

令和元年6月11日（火）第5校時

- 1 主題名 あなたの立場と私の気持ち 内容項目【 B 相互理解、寛容 】
- 2 ねらい 「自分は悪くない」と考える主人公とその友人たちといった異なる三者の心情を話し合い、もやもやした気持ちを晴らすために主人公が大切にしなければならぬ心を考えることを通して、自分と異なる立場の意見でも、謙虚に耳を傾け、広い心でお互いを認めようとする態度を育てる。

教材名 「お別れ会」（出典：「みんなの道徳6年」 学研教育みらい ）

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本主題は、小学校学習指導要領第3章特別の教科道徳における内容項目[B主として人との関わりに関すること]の[相互理解、寛容]、第5学年及び第6学年「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。」をねらいとしている。第3学年及び第4学年では「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。」の内容を踏まえ、高学年として「謙虚さ」という心情を感得し、それに基づく生き方をしようとする態度を育てることを授業のねらいとする。本授業の内容は、中学校での「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと。」へと発展していく。

社会生活を営む上で、人の考えの多様さを相互に認め合い、理解し合いながら高め合う関係を築くことは不可欠である。しかし、自分のものの見方や考え方についての認識が深まる高学年の時期には、考え方の近いもの同士が接近し、そうでないものを遠ざけようとする行動が見られる。自分の意見が通らなかつたり、相手の過ちが許せなかつたりすると、相手に対する怒りや憎しみ、不満等、負の感情に苛まれることがある。この感情は、仕返しや鬱などにつながり、いじめ問題へと発展しかねない。

それらの感情を払拭するためには、相手の意見を受け入れたり、他者の過ちを許したりするよう、感情をコントロールする自己内対話が大切である。私たちは自分の立場を守るため、自己本位に陥りやすいという弱い側面を持っている。その人間的弱さを乗り越えるために、「自分の意見が正しいわけではない。」「自分も過ちを犯すことがある。」などといった寛容さや謙虚さといった道徳的価値の良さに触れさせ、負の感情が自分に及ぼす影響を考えさせながら、自分と異なる立場の意見を受け止める態度につなげていきたい。

今日の重要な教育課題の一つでもあるいじめの未然防止として、いじめを生まない雰囲気や環境を醸成するためにも、広い心で互いの違いを認め合い、他者を尊重する態度を育てていきたい。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級では、これまでに人権作文や人権メッセージの取り組みを通して、人の心を考える学習を行ってきた。そのこともあり、クラスで行った「学級目標づくり」では、互いの意見を認め合いながら、前向きに話し合いをすることができた。決まった目標も「最高学年として助け合い人権を大切にクラス」と、人権が尊重されるべきものであるという意識がよくわかる。

本主題に関しては、5年生の時に「銀のしょく台」の学習で、ジャン・バルジャンを許すミリエル司教の広い心を考えたり、「すれちがい」の学習で、異なる立場の2人の心情をとらえ、お互いに理解し合うことについて話し合ったりしてきた。（一部省略）

また、6年生は学校のリーダーとして、学校行事等に積極的に取り組む機会が増える。しかし、一方で、話合いの段階で意見が対立し、異なる考えの友達を排除したり、自分が否定されたと感じ、相手を責めてしまったりと、自分の考え方を重視してしまう場面も見られる。

本学級でも、相手の意見を尊重せず、自分の意見を強く主張する児童は少なからずいる。友達とのトラブルの多くが相手の立場を理解しておらず、自分本位になっていたり、失敗を一方的に非難したりすることに原因があると考えられる。

このように、まだまだ、相手の気持ちを広い心で受け入れるということに、その良さを感じていない児童も多くいる。本授業では、寛容な心や謙虚な心の良さを考えさせることで、自分にのしかかっている感情の混乱を終わらせたり、良好な関係を築いたりすることができると気づかせていきたい。そして、相手の意見を素直に聞き、相手の立場になって考える大切さをとらえさせていきたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材の主人公直美は、転校する小原さんのお別れ会当日、家族とのドライブを断り、友達との約束を優先した。しかし、家族が出かけた後に、友達からお別れ会延期の連絡が入る。友達との約束を優先した直美と、家族の都合を優先した他の友人たち。怒りが収まらない直美は、転校する友達に怒りの矛先を向けてしまうという内容である。

相手を許せない主人公の気持ちに共感させながら、主人公が感じたもやもやした気持ちの奥にある寛容な心、謙虚な心の良さに気づかせるため、主に次の場面を話し合うこととする。

①小原さんからお別れ会延期の電話があった場面

お別れ会の延期で、怒りの感情に苛まれる主人公の気持ちに十分浸らせる。

②翌日、学校で4人がお別れ会の延期の理由について話す場面

自分を正当化する直美、直美に批判的な友達、困ってしまった小原さんという三者の立場から心情を考えさせていく。異なる立場で多面的に考えさせることで、相手の思いや考えに気づき、自分本位の気持ちから抜け出し、自己内対話のきっかけを作っていく。

③時間が経つにつれて、主人公直美のもやもやした気持ちが強くなっていった場面

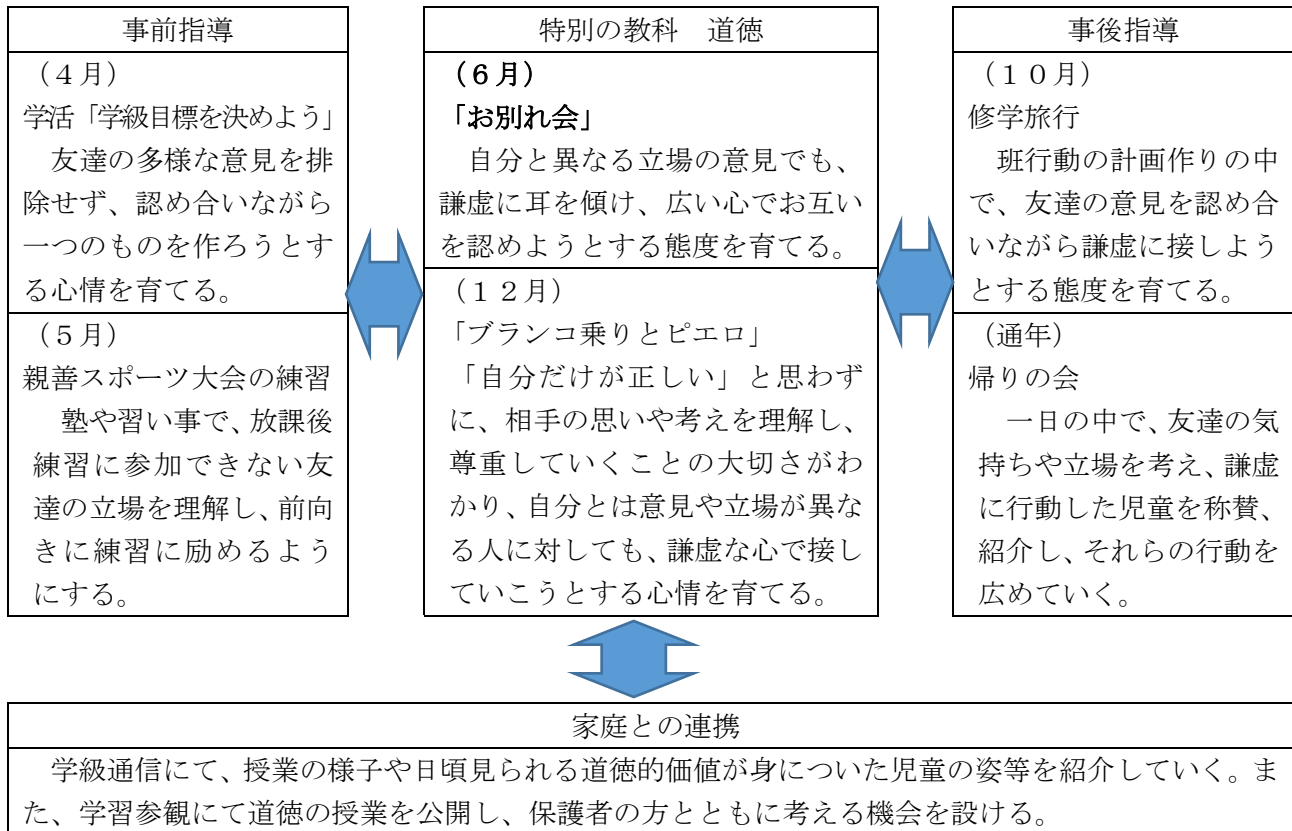
主人公が感じたもやもやした気持ちから、寛容な心、謙虚な心が見え隠れしていることに気づかせ、「この後直美はどうしたら自分の気持ちをすっきりできるのか」という中心発問の答えを考えさせる。「許す心」と「許せない心」の役割演技を通して、多様な意見を引き出しながら、演じていない児童の意見も交えることで、対話的で深い学びへとつなげていきたい。そして、その中で広い心をもつことの良さを感じ取らせ、寛容の精神をもった態度で生活していこうとする気持ちをもたせたい。

4 学習指導課程

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	<p>1 友達とのトラブルの場面を想起し、授業の方向性を知る。</p> <p>・こんな場面に遭遇したことはありませんか。 (配膳中、友達とぶつかってこぼしてしまう絵)</p>	<p>・自分は悪くないのに。</p> <p>・なんで自分ばかりが嫌な思いをしなくちゃいけないの。</p>	<p>・不寛容によっておこるトラブルの場面絵をいくつか提示し、その時の気持ちを考えさせる。</p> <p>・自らの経験とも重ね合わせ、自分事として考えられるよう声掛けをする。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 友達を許せないようなとき、どうしたらいいのかな？ </div>			
展開	<p>2 教材「お別れ会」を読んで、話し合う。</p> <p>(1) 小原さんからお別れ会の延期の電話があったとき、直美はどんな気持ちだっただろうか。</p> <p>(2) 友達の理由を聞いて、直美はどう思っただろうか。</p> <p>(3) 育代や幸子、小原さんはそれぞれどんな気持ちだろうか。</p>	<p>・何で言ってくれなかったの。</p> <p>・もっと早く言ってよ。</p> <p>・私は自分の予定をやめたのに。</p> <p>・みんなで決めたことなのに。</p> <p>「直美」</p> <p>・そんな理由なら、私も予定があったのに。</p> <p>・自分勝手じゃないか。</p> <p>・友達との約束の方が大切でしょ。</p> <p>「育代や幸子」</p> <p>・お母さんに言われたから仕方ない。</p> <p>・急に決まったことだし。</p> <p>・ちゃんと連絡はしたのに。</p> <p>・小原さんも都合悪いと言っているのに。</p> <p>「小原さん」</p> <p>・私のためにみんながいやな思いをしてつらい。</p> <p>・直美がそう思っているなんて知らなかったよ。</p> <p>・もう少し早く電話すればよかったかな。</p>	<p>・CDの朗読は声色がわかりやすいので、それを聞かせ、三者の立場を明確にとらえさせる。</p> <p>・善の行為である「許す」という考えを安易にもたせるのではなく、状況を正確に理解させ、直美の気持ちに共感させる。</p> <p>・怒りや不満などの負の感情に苛まれる状況を確認する。</p> <p>・三者の立場の意見をまとめ、関係性を板書する。</p> <p>・直美が気付いていない育代や幸子、小原さんの多様な気持ちを話し合わせることで自己内対話のきっかけをつくる。</p> <p>☆三者の心情を多面的に捉え、発言している。(発言、うなずき、表情)</p>

	<p>(4) この後直美はどうしたら自分の気持ちをすっきりできるのだろうか。</p> <p>(5) 今日の課題に対する自分自身の考えを伝え合おう。</p> <p>3 本時の学習を通してわかったことを書く。 ・今日の学習で、わかったことを書こう。</p>	<p>「許す」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんな家の用事だったんだから仕方ないよ。 ・小原さんの気持ちを考えたら許すべきだよ。 ・自分ももしかしたら逆の立場になるかもしれない。 <p>「許せない」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は悪くないわ。 ・先に約束したんだよ。 ・友達優先でしょ。 ・簡単に許しているの。嫌な思いをしたでしょ。 <p>・広い心をもっていれば許せし、自分も相手も気持ちがよくなる。</p> <p>・自分勝手になく相手のことを考えれば許せると思う。</p> <p>・誰にでも都合が悪い時があるので、いろんな立場の人の気持ちを考えることが大切。</p> <p>・すぐに怒るのではなくて、相手の話を聞くことが大切。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「許そうとする心」役と「許せない心」役の2つの立場で役割演技させ、自己内で納得解を見出せるようにする。 ・役割演技を見ている児童に考えを聞き、切り返しの声かけでゆさぶり、対話的に自己の考えを深めさせる。 ・どうしても許せないという考えをもつ児童には、その思いを受け取りつつ、許したときに感じられる良さ（広い心の良さ）も考えさせる。 <p>☆相手の立場の考えを尊重することの大切さや良さについて考え、話し合っている。(発言、うなずき、表情)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前段で考えた方法論に終始せず、その根底にある考え方や心に目を向けさせる。 ・考えが書けない児童には、授業をふり返る声かけを行い、自分に対する影響を考えさせ、自己を見つめさせる。 <p>☆「広い心」をもつことのよさや大切さについて、自分との関わりで考えている。(道徳ノート)</p>
<p>終 末</p>	<p>4 教師の説話を聞く。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・「広い心」で周りの人と接していかうとする意欲を高める。

5 他の教育活動との関連



6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・三者の立場で多面的・多角的に心情を捉え、相手の立場の考えを尊重することの大切さや良さについて考えている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・自分と異なる立場の意見でも、謙虚に耳を傾けることや広い心でお互いを認めること大切さについて、自分との関わりで考えている。

7 板書計画

